

A. 授 業 研 究

高須 照夫 都築 亨 酒井 為久 原 幸宏
丸山 豊 宮田 学 川田 基生

〔 I 〕 授業研究グループの活動をふりかえって

宮 田 学

1. 再 出 発

昭和53年度に入り、本校研究グループの再編成が行われた。新しい研究グループが結成されたり、メンバーの移動などがあった。

授業研究グループには上記7名のメンバーが集まった。まず、それまでの研究をふりかえりながら、取り組むべきテーマがメンバーから自由に提案されたが、その中には次のようなものがあった。

- (1) 教科教育の理論と実際
- (2) 中高の一貫を考えた授業のあり方
- (3) 授業効果をあげる形態・方法論
- (4) 学力の遅れている生徒にやる気をおこさせる授業の工夫
- (5) 視聴覚教材の利用と授業のあり方
- (6) 中等教育の教育効果の長期測定
- (7) 評価について

メンバーの問題関心が多岐にわたり、それぞれにアクセントの置き方の違うことがわかる。次にグループとしての活動計画に移ったわけだが、結局、大きなテーマを「授業の追求と改善」とし、活動内容として

- ① VTRによる授業記録
- ② 他校訪問

- ③ 教える側としての授業観・教材観の交換

を考えた。また、グループとしての研究を実りあるものにするには、それ以前に各自の日常的な授業実践における「追求と改善」が不可欠であるという認識にたち、各自が次にあげるような独自のテーマをもって一年間の活動を行うことを確認した。

- ・都築：スライド・VTR教材の開発(高2，世界史)
- ・高須：遅れた生徒を活躍させる工夫(中2，数学)
- ・酒井：国語成績向上法(中1・高1，国語)
- ・原：基本的・基礎的事項の検討(中・高，地理)
- ・丸山：授業における集団(中2，社会)
高3でいかにしゃべらせるか(高3，日本史)
- ・宮田：グループ学習の試み(中3，英語)
ディベート討論会の導入(中3，道徳)
- ・川田：中3一高3の関連(高3，政治経済/中3，
公民)

2. 活動の足どり

グループとしての共同研究活動は、ほとんどなかったと言ってよい。というのは、まず、計画に従ってVTR撮りを実行したものの、機械の故障のために失敗に終わってしまった。他校訪問についても、訪問校が決まりながらも、メンバーの出張や日程の関係で実現できなかった。また、さしせまった発表の機会がなかったため、グループとして共同研究しなくてはならないという共通の意識が薄く、はっきりとした意図をもった取り組みができなかったということもある。

今回の報告は、従って、グループ全体のテーマ追究というのではなく、メンバーがそれぞれの立場で行った授業実践のうち、比較的まとまった形になっているものを掲載するということにならざるを得なかった。

「発表学習の問題点」は、丸山豊がここ数年来問題にしている、学級における小集団作りと社会科の授業内容・方法との関係についての考察であり、生徒集団のあり方と授業の成り立ち方という視点で読んでいただくと、何らかの示唆が得られると思う。

「特設道徳におけるディベートの導入」は、宮田学が中3の道徳の授業において行った試みであるが、授業の1つの形態もしくは教授方法として「ディベート」討論の手法が成り立つかどうかという視点で読んでいただければ幸いである。

3. 今後の取り組み

1つのテーマを共同で追究するという作業のむずかしさは、授業研究グループならずとも、共同研究にたずさわったことのある者の痛感するところであろう。われわれのグループも、発足以来5年目となる。中・高における授業にメスを入れようという発足当時の目的は、今後ともグループにとっての最大のものであろう。われわれが「授業の追求と改善」という意識を共通に持ちながら、各自の授業実践を記録し分析し検証する中で、何らかの糸口が見つけられるであろうという期待をもって、今後とも研究を重ねたいと思っている。